

(公財)コープともしびボランティア振興財団

2015 年度事業報告

【 I 】2015 年度事業報告

1. 設立20周年の節目の年として、4つの記念事業を行うとともに、広報を強化しました。今年度の財団の取り組みへの参加者はのべ1870人になりました。
2. 4つの記念事業や広報活動を通し、助成グループの約2割を訪問・取材するなど、助成グループとの関わりを強めました。
3. 地域の課題解決の1つのあり方として、「地域の居場所づくり」について、初めて立ち上げ時の助成を行いました。同時に、テーマを設定しての助成としても初の試みとなりました。
4. より地域に開かれた公益財団法人をめざし、助成金説明会を8エリアで実施。中間支援組織とも連携し、広報をすすめたことで、参加者・参加グループともに昨年より大きく増えました。

I. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援します。

1. ボランティア活動助成

(1) 2015 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成給付率(%)
①	福祉	高齢者	43	1,361,000	14.8
		障がい者	20	1,413,000	15.3
		地域住民	7	320,000	3.5
		在日外国人	1	120,000	1.3
		特定団体	1	18,000	0.2
		施設・病院	5	225,000	2.4
		合計	77	3,457,000	37.5
②	まちづくり		9	610,000	6.6
③	文化・芸術		9	502,000	5.5
④	国際協力		6	288,000	3.1
⑤	男女共同参画		1	226,000	2.5
⑥	子ども育成		42	2,732,000	29.7
⑦	環境の保全		28	1,393,000	15.1
合計			172	9,209,000	100.0

※2015 年度より、安全性と効率性を重視し、助成金の手渡しを中止し、口座振り込みに変更しました。

(2) 2016 年度ボランティア活動助成に向けた助成金説明会を実施

◇2016 年度 助成金説明会 参加状況

	日時	開催エリア	参加者数	参加グループ数 (新規)
①	11/11 (水)	神戸市中央区 ※近畿ろうきんと合同開催	90	49 (18)
②	11/18 (水)	西宮市	30	23 (8)
③	11/19 (木)	洲本市	17	9 (8)
④	11/25 (水)	姫路市	25	22 (4)
⑤	11/28 (土)	神戸市東灘区	60	51(11)
⑥	11/30 (月)	宝塚市	38	37 (7)
⑦	12/1 (火)	神戸市北区	26	20 (5)
⑧	12/4 (金)	明石市	37	28 (7)
計			323	239 (68)

※2015 年度の助成グループ(172)のうち、30 グループは 2016 年度申請なし

◇2016 年度 申請状況

	申請グループ数	申請金額 (円)	継続グループ数	新規グループ数
福祉分野	152	13,866,340	122	30
環境分野	36	3,183,000	27	9
計	188	17,049,340	149	39

2. 市民力を高めるボランティアコーディネート実践のための調査研究助成

(1) 2013・2014 年度調査研究対象者による報告会

この助成制度は、ボランティアな活動を幅広くコーディネートできる人材が地域づくりのキーになるという問題意識から「活動への助成」に加え「人を育てる助成」として2006年度にスタートしました。約10年が経過し、助成の枠組みを見直すため、今年度は、募集を中止し、報告会の実施となりました。初めてファシリテーターを立てての報告会にしましたが、ファシリテーターが参加者から報告者への質問を引きだし、回答を聞く中で報告内容への理解が深まるなど、意義深い報告会となりました。

日 時：2015 年 6 月 26 日(金) 13:00~15:30

場 所：コープこうべ 健保会館 2階大会議室 (参加費無料)

ファシリテーター：川中 大輔 (シチズンシップ共育企画代表)

参加者：21 名

(2) 研修事業

今年度は、助成グループの声から生まれた講座や交流会を行いました。また、各地

域でコープこうべ地区活動本部が主催する講座を後援。コープこうべ各店舗で開催しているレインボースクールなど9講座244名の参加がありました。

【財団主催研修】

研修テーマ・内容 講師名	時期、参加人数
居場所づくり&脳トレ コミュニケーション麻雀ってなあ〜に？ ----- 居場所づくりのツールとして、ゲームをしながらコミュニケーションを取り、脳トレになることを体験する ----- motto ひょうご 事務局長 栗木 剛	4月24日 参加人数 32名
コミュニケーション麻雀「フリー体験会」 ----- 前回の講座の第2弾として、自由に体験しながら、コミュニケーション麻雀の楽しみかたや活用方法を学ぶ ----- 財団スタッフ	10月22日 参加人数 12名
活動が伝わる写真活用セミナー ----- 魅力的な写真の撮り方、活動をPRするためのチラシづくりのポイントを学ぶ ----- 株式会社 北星社 カメラマン・デザイナー	9月15日・29日 参加人数 35名
手づくり活動継承交流会 ----- 活動の継承。 活動分野の違う団体とのコラボレーションの可能性を考える機会とする ----- ボランティアグループ	3月1日 参加人数 12名

【各地区活動本部主催講座】

研修テーマ・内容 講師名	時期、参加人数
みんなできいきボランティア ----- ボランティアを始める人、継続している人との出会い・交流の場とし、「楽しい活動」イメージを創る ----- motto ひょうご 事務局長 栗木 剛	5月25日 参加人数 66名
現在の活動をもっと元気に、継続させるための工夫	5月30日 参加人数 31名

活動の活性化。上手な継続、活動の卒業方法を学ぶ	
motto ひょうご 事務局長 栗木 剛	
ボランティア活動の裾野を広げる講座 コミュニケーション麻雀	1月27日 参加人数 25名
コミュニケーション麻雀を通してコミュニティの場づくりを学ぶ	
motto ひょうご 事務局長 栗木 剛	

【コープこうべ各店舗】

研修テーマ・内容 講師名	時期、参加人数 開催場所
ともしび財団ってどんなことをしているの ボランティアについて楽しくコミュニケーションをとりながら、ともしび財団の取り組みについて紹介 財団スタッフ	1月14日 参加人数 16名 コープこうべ六甲
コミュニケーション診断と財団紹介 自分のコミュニケーションパターンを知って日頃の人間関係に活かす。財団の紹介 財団スタッフ	2月4日 参加人数 15名 コープこうべ長田

II. 設立20周年を機に、地域に当財団の理解者、支援者を広げました。

1. 20周年事業を実施し、新たな活動を掘り起こすとともに、当財団への関心や理解者を増やす取り組みを行いました。

(1) 地域づくり事例学習のための「1 DAY 視察交流」の実施

①淡路島 5/28 ②丹波篠山 10/19 ③たつの 12/9 各 40 人参加 参加費 4000 円/人
財団の助成グループなどが運営している居場所やサロン（自宅、廃校した小学校、地域の施設活用）、その他地域課題に取り組む現場を訪問。通常では行けないところが視察できると大変好評。財団のことを全く知らない方の参加が多く、DVD 視聴、参加者相互の交流などにより、財団への理解度も高まり、後日賛助会員になった方が 10 名ほどありました。また企画のために、地元行政、NPO、中間支援組織と相談したことにより、各地域と当財団との関係性ができ、結果として 2015 年度に初の淡路島、2016 年度は初の丹波での申請説明会の実施につながりました。

(2) 「地域の居場所立ち上げ助成」実施

①セミナー&説明会 10/29・11/17 53 人が参加 ②審査会を 12/21 日に実施

当財団の助成を受けるためには、申請までに半年以上、10回以上の活動をしていることが条件になっていますが、「立ち上げ時にこそ助成金がほしい」の声も多くありました。そこで、20周年記念事業の1つとして、「新たな地域の居場所」を立ち上げようとしているグループに対し、最大20万円・合計60万円の助成金制度を用意。10月にセミナーを行い、2つの先進事例の紹介と、参加者同士の情報交換、助成金申請説明を実施しました。結果として、9件の応募がありうち4件の先進的な活動に対して、1月度の運営委員会の場で助成を決定しました。

2015年度「地域の居場所立ち上げ助成」4グループ

グループ名	開設場所	活動内容
尼崎 ENGAWA 化計画	尼崎市	様々な人たちとの交流の場づくりを行ってきた若い男性3人がグループを設立。商業ビルの閉店した喫茶店をDIYでリノベーションし、交流イベントスペースを設置。気軽に楽しく学べる「おとなのための寺子屋」、テーマを決め、食材を持ち寄る「朝食を楽しむ会」等を開催し、月に20回程度イベントを開催している。
つながるまんまるうサロン	神戸市灘区	居場所講座の修了後、受講生より提供のあった2世帯住宅の空き室となった1階部分を活用し、多世代交流を図ることを目的にグループを設立。喫茶&参加者が講師となって発表する発表会や新聞記事を題材としたミニ勉強会などを開催している。
なだ・ワークライフ・カフェ	神戸市灘区	保育園ママたちが地域の親子・地域住民の交流の場を定期的にもつためにグループを設立。子どもは遊び、親はコーヒーなどを飲みながら交流できる「日曜カフェ」、地域交流イベント、小学校長期休暇中の子どもたちの地域住民による体験教室などを実施する「児童朝活サポート」の活動を予定している
舞子坂ふーみん	神戸市垂水区	障害者の相談支援コーディネータ、高齢者施設のケアマネ、ガイドヘルパーなど専門職の人たちが集まり、空き家を用いて、週2回の居場所を開設。昼食サービスや喫茶サービス、体操などの介護予防を行う住民交流事業、参加者の希望により開設するミニカルチャー事業、買い物の付き添いなどの生活サポート事業を実施している。

(3) 財団の認知度を上げることを目的に、記念イベントを開催

①記念式典&記念講演会（講師 教育評論家 尾木直樹） 1/8 神戸文化ホール

神戸市教育委員会の後援を得て開催し、650人の参加がありました。当日のアンケートでは参加者の7割が今回のイベントで初めて財団を知った人たちでした。

また20代から40代の若い世代の参加も5割ありました。記念式典では、参加者に財団のDVDも視聴いただくなど、認知度を上げるという目的が一定達成できました。

(4) 20年の歩みのふりかえりと支援者への感謝として「記念懇親会」を実施

①設立 20 周年記念懇親会 2/16 生活文化センター2 階ホール 135 人参加

助成グループ、賛助会員、企業、行政、NPO 職員、コープこうべ役職員、財団役員などが参加しました。外部識者を中心とした財団の「運営委員」の協力も得て進行。20 年間の組合員からの支援に対し、財団と助成グループ連名で、コープこうべの本田組合長に「感謝状」を贈呈しました。また、3 つの助成グループが活動内容をパフォーマンスしたり、財団の歩みと「創りたい地域」のメッセージ映像の上映を行いました。今後の 10 年、20 年を見据え、財団がそれぞれの時代の社会的課題やニーズを掘り起こしていく「開拓者」としての姿勢で進んでいくことを確認しました。

2. 20 周年の財団の歩みとめざすもの、現在の活動をまとめ、映像や、パンフレット、HP などで広報しました。

(1) 記念パンフレット(普及版)の作成と配布

4 月に、A4・6 ページカラー版として 11,000 部を発行。助成グループ、賛助会員、コープ委員、行政、研修参加者、その他に広く配布しました。

(2) 記念 DVD の制作と活用

5 月の市民活動交流会で初めて上映後、財団紹介の研修、申請説明会、記念式典などで約 20 回程度上映。のべ約 1300 人に財団の成り立ちや、財団がどんなグループを助成しているかについて、知っていただくことができました。

(3) 記念冊子の作成と配布 A4・52 ページカラー版 / 31 グループに取材して制作 1000 部発行 2/16 日の記念懇親会から配布開始しました。2016 年度から法人会員獲得などに活用予定です。

Ⅲ. コープこうべとの連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を高めました。

1. 広報強化の継続・発展

(1) 設立 20 周年について、コープこうべ関係部署により地域に発信

設立 20 周年をテーマに、広報室や宅配事業部による広報活動が行われました。

(2) 職員 SNS の活用

2. 人材育成の連携強化

3. 資金調達の連携強化

(1) 賛助会費・寄付・募金について

2015 年度は、設立 20 周年を機に、様々な広報活動を行ったことから、賛助会費・寄付・募金、すべての項目で目標額を達成する見込みです

(2) 新しい社会的課題に対応する資金調達の検討

新しい社会課題に対応する資金調達については、コープこうべの関連部署との相談や、外部のファンドレイジング事例などを研究しています。

(3) 夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。毎年緩やかに増加しています。

4. 基本財産運用

財産運用規則にのっとり、適正に運用をすすめました。